

---

**2015年3月期  
第3四半期決算 及び 通期業績見通し  
説明資料**

---

**帝人株式会社**  
2015年2月3日

# 第3四半期決算概況

# (1) 2015年3月期 第3四半期決算概況

(億円)

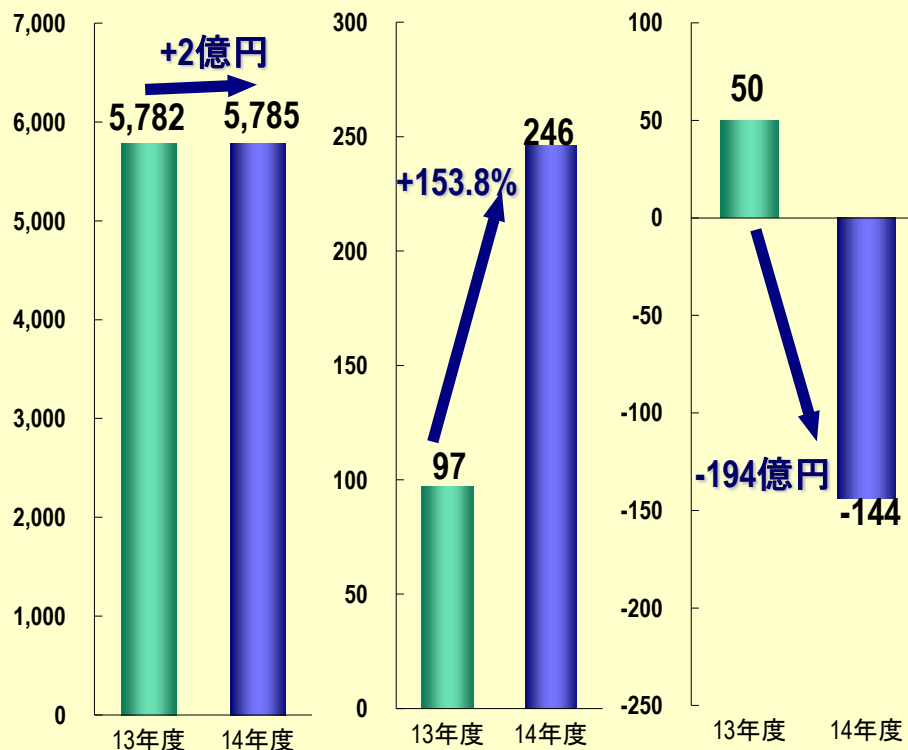
## 年度累計

(前年同期比)

売上高

営業利益

四半期純利益



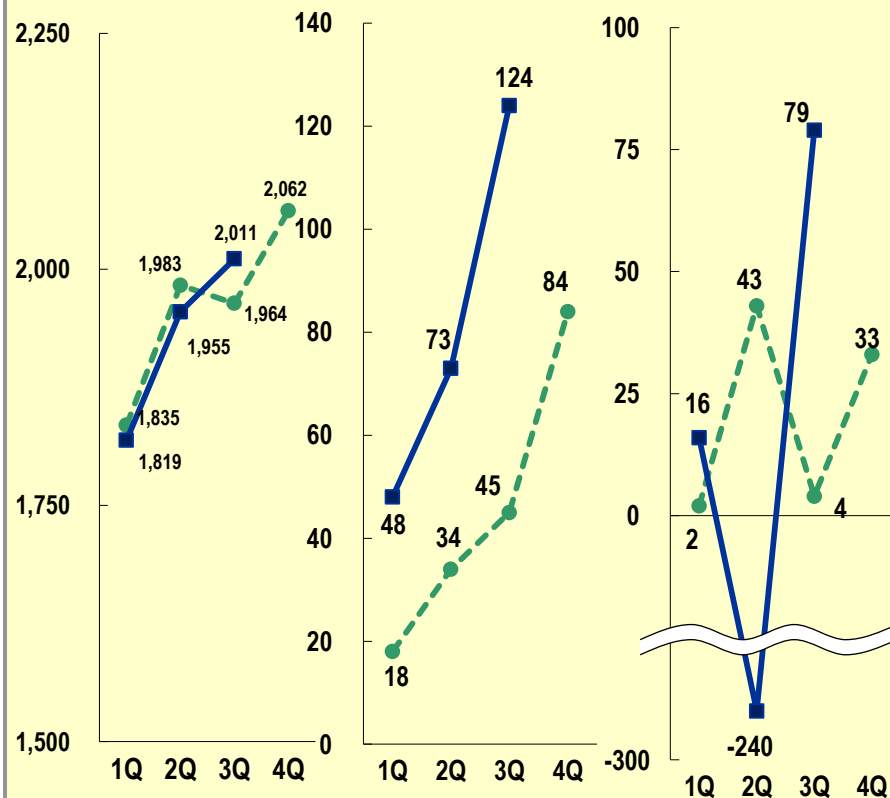
## 四半期推移

● 13年度 ■ 14年度

売上高

営業利益

四半期純利益



## ◆ 経営成績

(億円)	13年度 3Q累計	14年度 3Q累計	差異
売上高	5,782	5,785	+2
営業利益	97	246	+149
<営業利益率>	1.7%	4.2%	+2.6%
営業外損益	30	44	+14
経常利益	127	290	+163
特別損益	-16	-461	-445
税金等調整前 当期純利益	111	-172	-283
法人税等	80	-4	-84
少数株主損益	-20	-23	-4
四半期純利益	50	-144	-194
EPS(円)	5.11	-14.68	-19.79

- 売上高 横ばい
  - ・ 各セグメントにおいて増収
  - ・ パラキシレンの事業撤退に伴い減収
- 営業利益
  - ・ 素材事業、ヘルスケア事業において大幅増益
  - ・ 電子材料・化成品はほぼ収支均衡
- 経常利益
  - ・ 為替差益により営業外収支改善
- 税金等調整前利益～四半期純利益
  - ・ 構造改革等により、464億円の特別損失を計上

EBITDA *1	437	571	+133
設備投資 *2	210	200	-10
減価償却費	340	325	-16
研究開発費	239	230	-9
FCF	-190	-13	+177

## ◇ PL換算レート

	13年度 3Q累計	14年度 3Q累計
円/米ドル	99	107
円/ユーロ	132	140
米ドル/ユーロ	1.33	1.31

\*1: EBITDA (営業利益+減価償却費)にて算出 \*2: 設備投資には無形固定資産を含む

◆ 特別損益等

(億円)	13年度 3Q累計	14年度 3Q累計	差異
固定資産売却益	2	1	-1
投資有価証券売却益	82	1	-81
減損損失戻入益	—	1	+1
その他	5	0	-4
特別利益 計	88	2	-86
固定資産除売却損	9	5	-4
投資有価証券評価損	1	0	-1
減損損失	64	316	+251
事業構造改善費用	18	139	+122
その他	13	4	-9
特別損失 計	104	464	+359
特別損益 計	-16	-461	-445

■ 減損損失：316億円

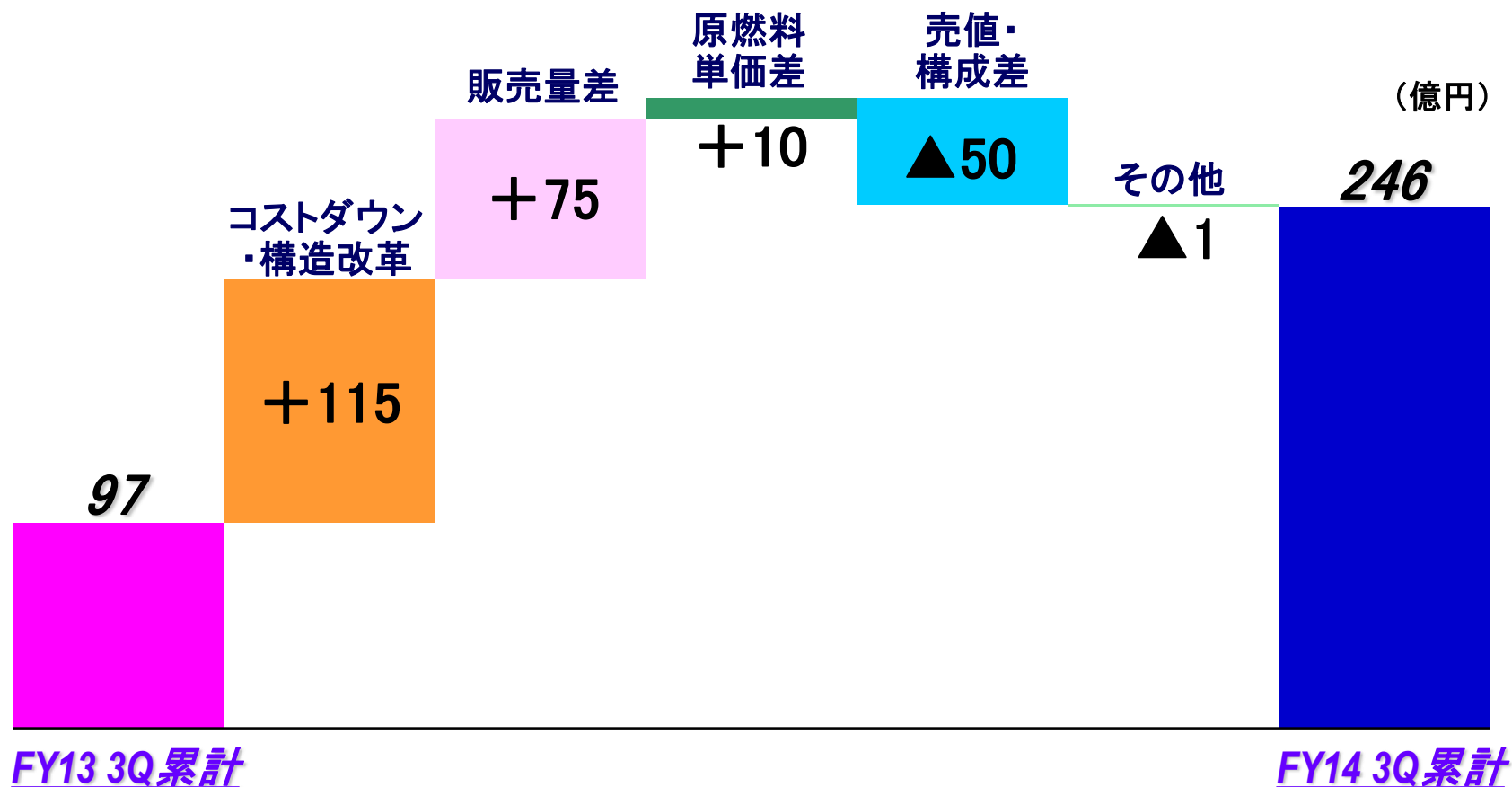
- ・ 電子材料・化成品 200億円
- ・ ヘルスケア 44億円
- ・ 原料重合・動力 41億円
- ・ 高性能繊維・複合材料 22億円
- ・ その他 10億円

■ 構造改善費用：139億円

- ・ 電子材料・化成品 122億円
- ・ 原料・重合 11億円
- ・ その他 7億円

## ◆ 営業利益増減内訳

- 構造改革・コストダウンの効果発現により、収益を底上げ
- 販売量拡大も、薬価改定や素材事業における価格圧力増大により相殺



### ◆ 財政状態

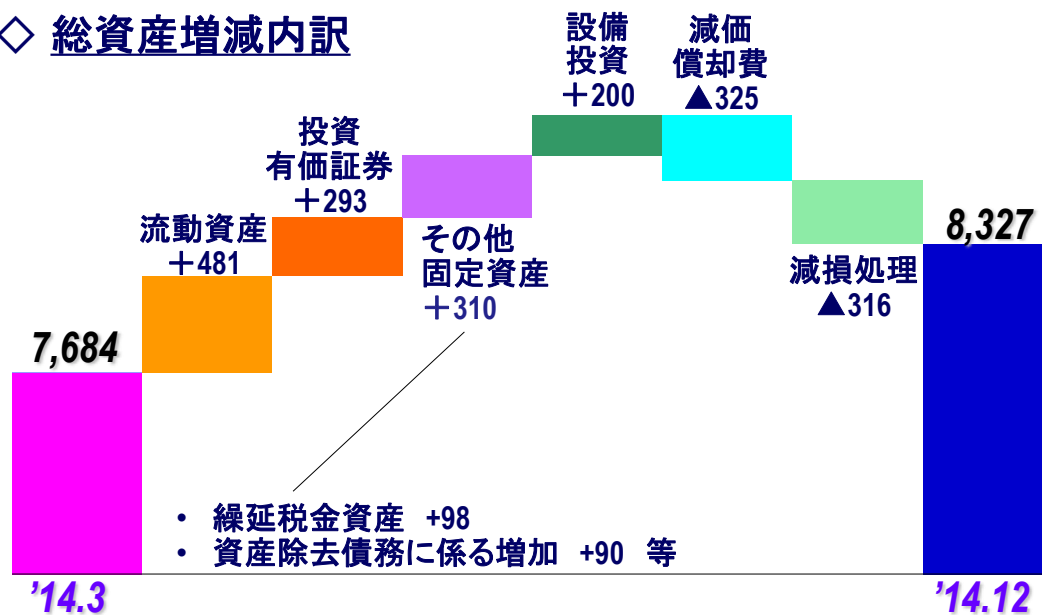
(億円)	14年 3月末	14年 12月末	差異	内 為替 換算影響
総資産	7,684	8,327	+643	+235
自己資本	2,817	2,775	-41	+92
有利子負債	2,815	3,173	+358	+71
D/Eレシオ	1.00	1.14	+0.14	
自己資本比率	36.7%	33.3%	-3.3%	

### ◆ キャッシュ・フローの状況

(億円)	13年度 3Q累計	14年度 3Q累計	差異
営業活動	186	438	+252
投資活動	-376	-451	-75
FCF	-190	-13	+177
財務活動他	51	184	+133
現金及び 現金同等物 増減	-139	171	+309

\* キャッシュ・フローについては金融商品取引法に基づく四半期レビューの対象外

### ◇ 総資産増減内訳



### ◇ BS換算レート

	14年 3月末	14年 12月末
円／米ドル	103	121
円／ユーロ	142	147
米ドル／ユーロ	1.38	1.22

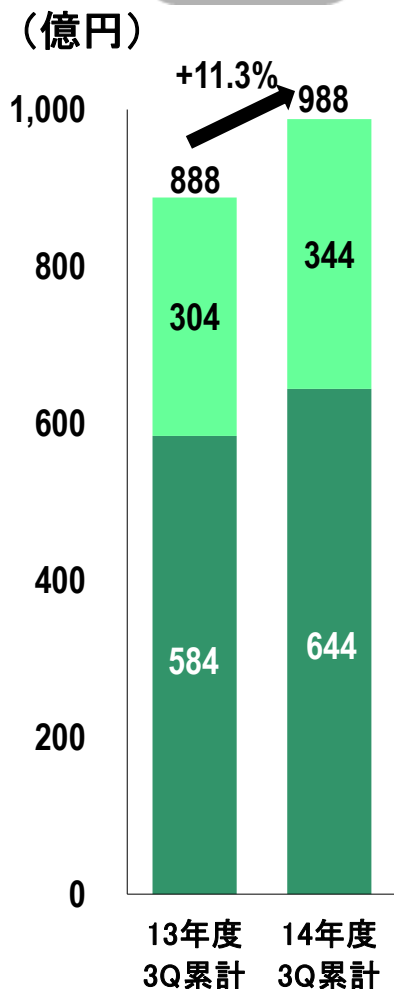
## (2) セグメント別 売上高・営業利益比較(対 前年同期)

(億円)	売上高				営業利益			
	13年度 3Q累計	14年度 3Q累計	差異	増減率	13年度 3Q累計	14年度 3Q累計	差異	増減率
高機能繊維・複合材料	888	988	+100	+11.3%	33	78	+45	+137.5%
電子材料・化成品	1,363	1,389	+27	+2.0%	-45	-2	+43	—
ヘルスケア	1,014	1,059	+45	+4.4%	173	213	+39	+22.8%
製品	1,869	1,905	+36	+1.9%	34	32	-3	-7.3%
計	5,133	5,341	+208	+4.1%	196	321	+125	+63.9%
その他	649	443	-206	-31.7%	-9	14	+23	—
消去又は全社	—	—	—	—	-90	-89	+1	—
合計	5,782	5,785	+2	+0.0%	97	246	+149	+153.8%

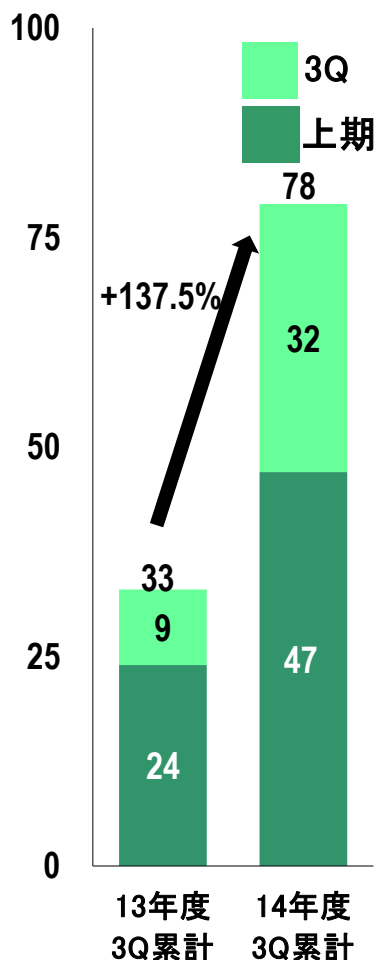


## ① 高機能繊維・複合材料事業

### 売上高



### 営業利益



(億円)	13年度 3Q累計	14年度 3Q累計	差異	増減率
売上高	888	988	+100	+11.3%
営業利益	33	78	+45	+137.5%

### ◆事業概況

#### ◇高機能繊維:

##### パラアラミド繊維:

- ・ 自動車、インフラ関連用途は堅調
- ・ 防弾用途はアジア・中東で拡大

##### メタアラミド繊維:

- ・ 防護衣料及び産業資材用途が堅調推移

##### ポリエステル繊維:

- ・ 自動車関連用途伸び悩み  
衛生材料、インフラ・土木用途等拡大
- ・ 原料価格低下やコストダウンもあり収益は改善
- ・ 国内生産体制再編・タイへの生産移管を決定

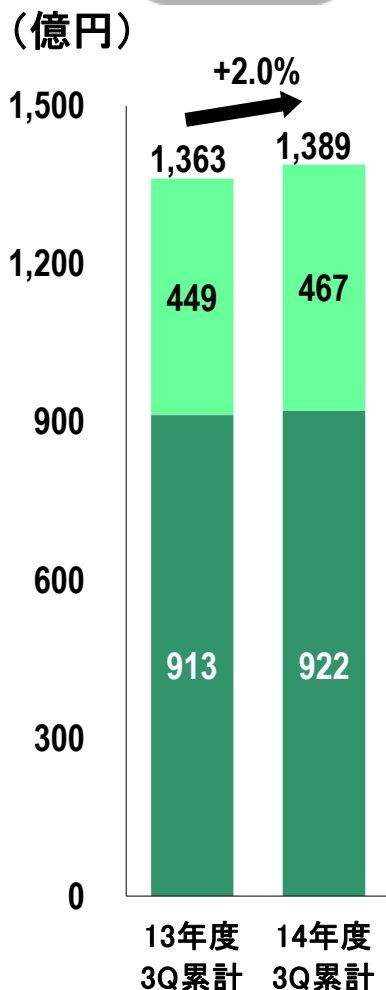
#### ◇炭素繊維・複合材料:

- ・ 航空機用途・圧力容器向けは順調
- ・ 土木補強向けやスポーツ・レジャー用途は  
アジア地域で堅調に推移

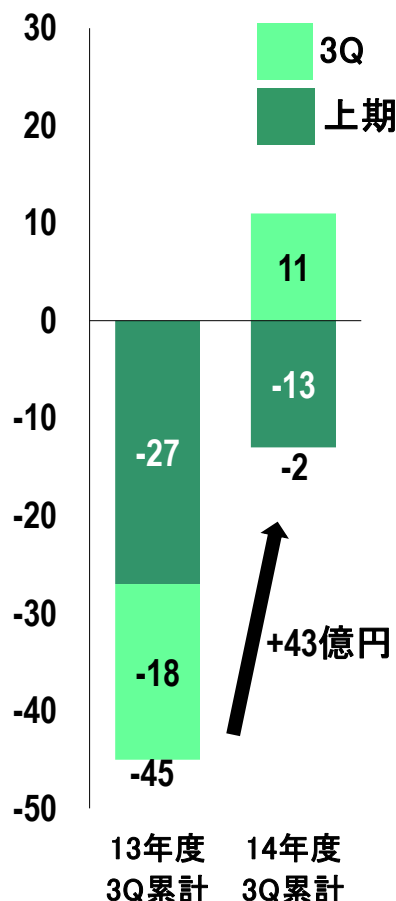
② 電子材料・化成品事業

(億円)	13年度 3Q累計	14年度 3Q累計	差異	増減率
売上高	1,363	1,389	+27	+2.0%
営業利益	-45	-2	+43	-

売上高



営業利益



◆ 事業概況

◇ 樹脂:

PC樹脂:

- 原料高に対し価格転嫁を進めてきたが、3Q以降の主原料価格下落により利幅改善
- 生産能力の適正化と固定費圧縮を推進

樹脂加工品・特殊PC:

- カーナビ、スマホ等向けフィルム順調
- ウェアラブル端末向け等の新規用途にも注力

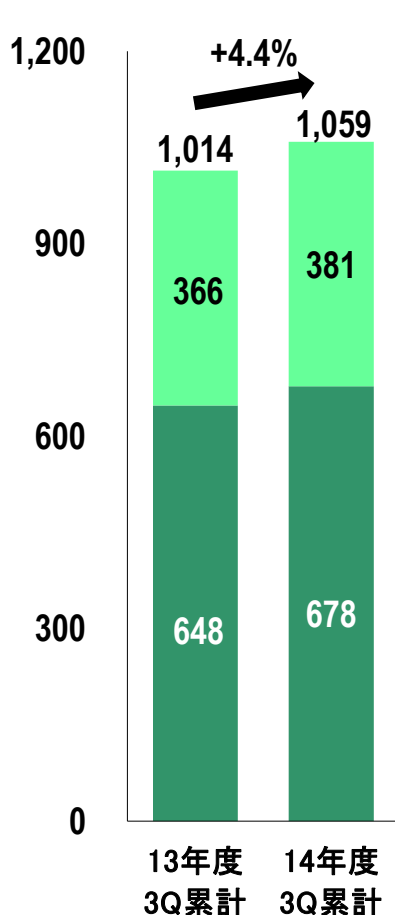
◇ フィルム:

- 液晶TV向け反射板、磁気用途は苦戦
- 積層セラミックコンデンサ(MLCC)や偏光板向けの工程用離型フィルム堅調
- 国内生産体制の再編を決定

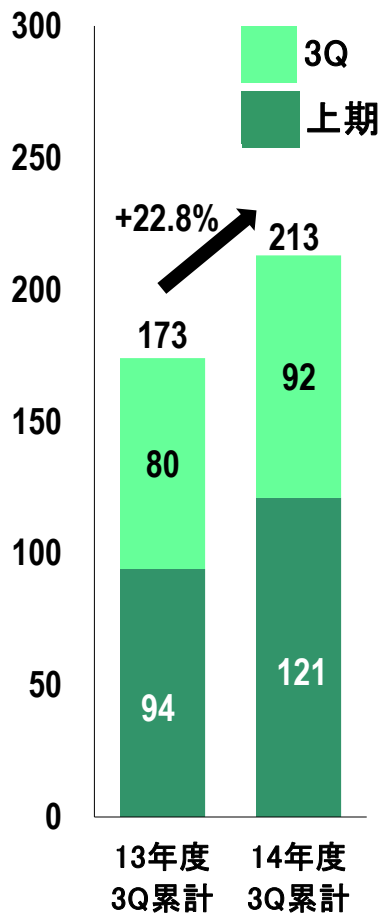
### ③ ヘルスケア事業

#### 売上高

(億円)



#### 営業利益



(億円)	13年度 3Q累計	14年度 3Q累計	差異	増減率
売上高	1,014	1,059	+45	+4.4%
営業利益	173	213	+39	+22.8%

#### ◆事業概況

##### ◇医薬品:

- ・ 高尿酸血症・痛風治療剤「フェブキソスタット」  
国内トップのシェアを更に拡大  
海外でも約40ヶ国で販売、順調に拡大中
- ・ 薬価改定、後発品拡大により、既存薬は苦戦
- ・ 骨粗鬆症治療剤「ボナロン\*」  
新剤形(点滴静注/ゼリータイプ)は好調

##### ◇在宅医療:

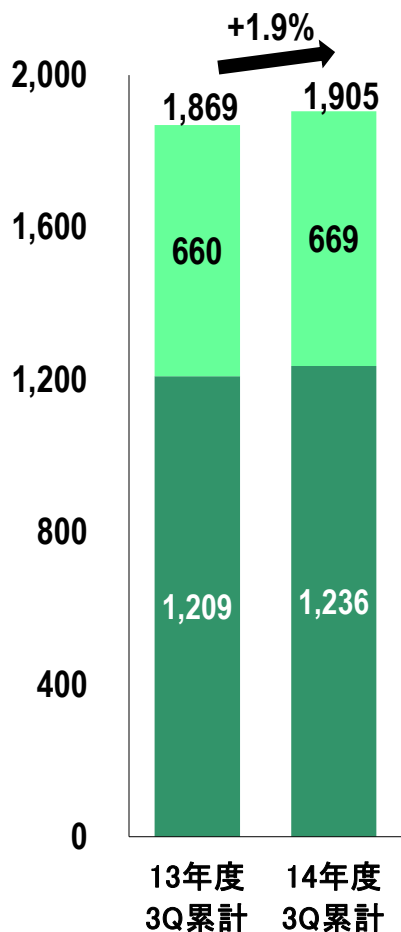
- ・ HOT: レンタル台数を維持、新機種を上市
- ・ CPAP: レンタル台数は着実に伸長
- ・ 米国では厳しい事業環境が継続  
営業所の統廃合・人員削減等の改善策を推進

\* ボナロン<sup>®</sup>/Bonalon<sup>®</sup> はMerck Sharp & Dohme Corp.の登録商標です。

④ 製品事業

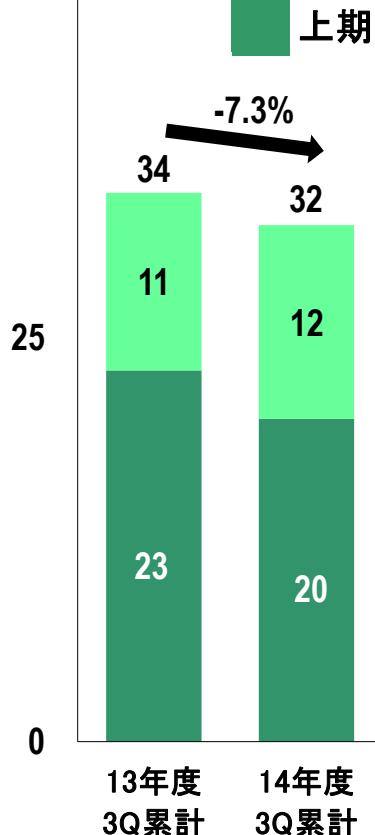
売上高

(億円)



営業利益

50



(億円)	13年度 3Q累計	14年度 3Q累計	差異	増減率
売上高	1,869	1,905	+36	+1.9%
営業利益	34	32	-3	-7.3%

◆ 事業概況

衣料繊維：

- ・ スポーツ・アウトドア用途が好調に推移  
海外大手スポーツアパレルとの戦略的取り組み拡大
- ・ 円安に伴う輸入コスト上昇により採算悪化
- ・ アセアン地域での供給力アップ、素材開発力を活かしたODM\*事業の強化を推進

産業資材：

- ・ 自動車関連用途は堅調に推移
- ・ 不織布、土木関連、スポーツ用途カーボン素材、中国での水処理関連フィルターも堅調
- ・ タイヤコード生産の合併会社新設(タイ)等、自動車用ゴム資材のグローバル展開加速

\* ODM : 相手先ブランドによる企画・生産

### (3) 主要アクション(2014年10月以降)

#### 【構造改革の推進】

##### ■ 国内のポリエステルフィルム生産拠点の再編

宇都宮・岐阜2拠点体制 ⇒ 宇都宮事業所へ集約

岐阜事業所の生産活動は段階的に縮小、2016年9月末をもって生産を停止  
宇都宮/海外への生産移管・代替品切替えや外部供給委託等を通じ、  
生産銘柄の最適化を進める

⇒生産体制の抜本的見直しを通じて生産効率を向上し、  
ポリエステルフィルム事業のグローバルでの競争力強化へ

#### 【重点戦略事業の強化】

##### ■ 炭素繊維複合材料の開発推進

超高耐熱プリプレグの開発

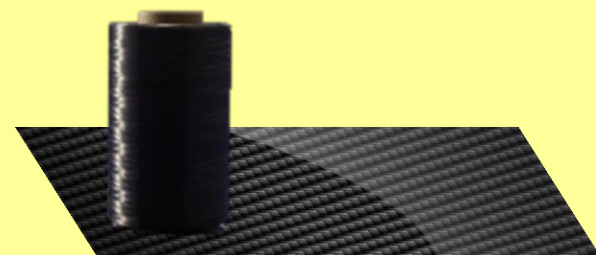
320℃以上の超高温下での使用を実現

ヒートクラック(熱膨張/収縮の繰り返しにより発生する亀裂)を抑制

高速硬化プリプレグの開発

当社従来タイプのプリプレグに対し、生産効率を数十倍に向上させることが可能  
生産性と表面外観性を両立

⇒航空機・自動車用途への中間材料展開拡大へ



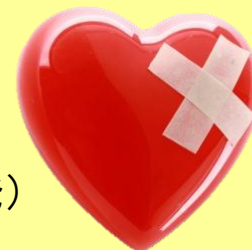
### (3) 主要アクション(続き)

#### 【発展戦略の推進】

#### 事業間融合による新規ビジネスの創出

##### ■ 生体適合医療材料の実用化 (素材+ヘルスケア)

「心臓修復パッチ」の開発 (大阪医科大学、福井経編興業(株)との共同開発)



経済産業省の医工連携事業化推進事業に採択

生体吸収性ポリマー系と非生体吸収性ポリマー系を組み合わせ、強度と伸長性を同時に実現

⇒従来にない「自己組織に置換され、伸長する心臓修復パッチ」の実現

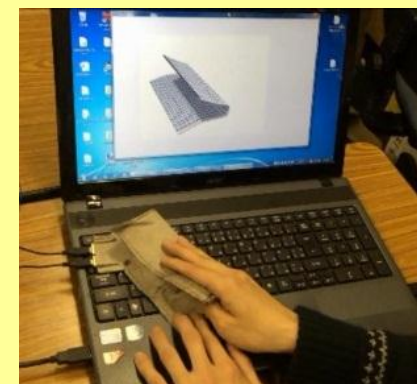
##### ■ モニタリング・サービスの横展開 (素材+IT)

「圧電ファブリック」の開発 (関西大学との共同開発)

圧電体にポリL乳酸繊維、電極に炭素繊維を使用することで、センサー等への使用を可能としたファブリック

織り方/編み方により様々な方向を感知するファブリックが設計可能

⇒動きを生地でデータ化するウェアラブルデバイスへの展開



オープンイノベーション / 社外との連携強化推進  
新たなソリューション提供による付加価値創造へ

# 2015年3月期 通期業績見通し

## (1) 通期業績見通しの概況

\*2 前回見通しは2014年11月5日に公表

(億円)	13年度	14年度 今回見通し	差異		14年度 前回見通し*2	前回見通し との差異 (金額)
			金額	%		
売上高	7,844	7,800	-44	-0.6%	7,800	—
営業利益	181	320	+139	+77.0%	250	+70
<営業利益率>	2.3%	4.1%	—	+1.8%	3.2%	+0.9%
経常利益	199	335	+136	+68.5%	235	+100
当期純利益	84	-180	-264	—	-200	+20
設備投資*1	302	340	+38	+12.6%	370	-30
減価償却費	457	440	-17	-3.6%	450	-10
研究開発費	322	330	+8	+2.4%	340	-10
FCF	-87	-50	+37	—	-100	+50

\*1 設備投資には無形固定資産を含む

## ■ 中間配当及び期末配当予想

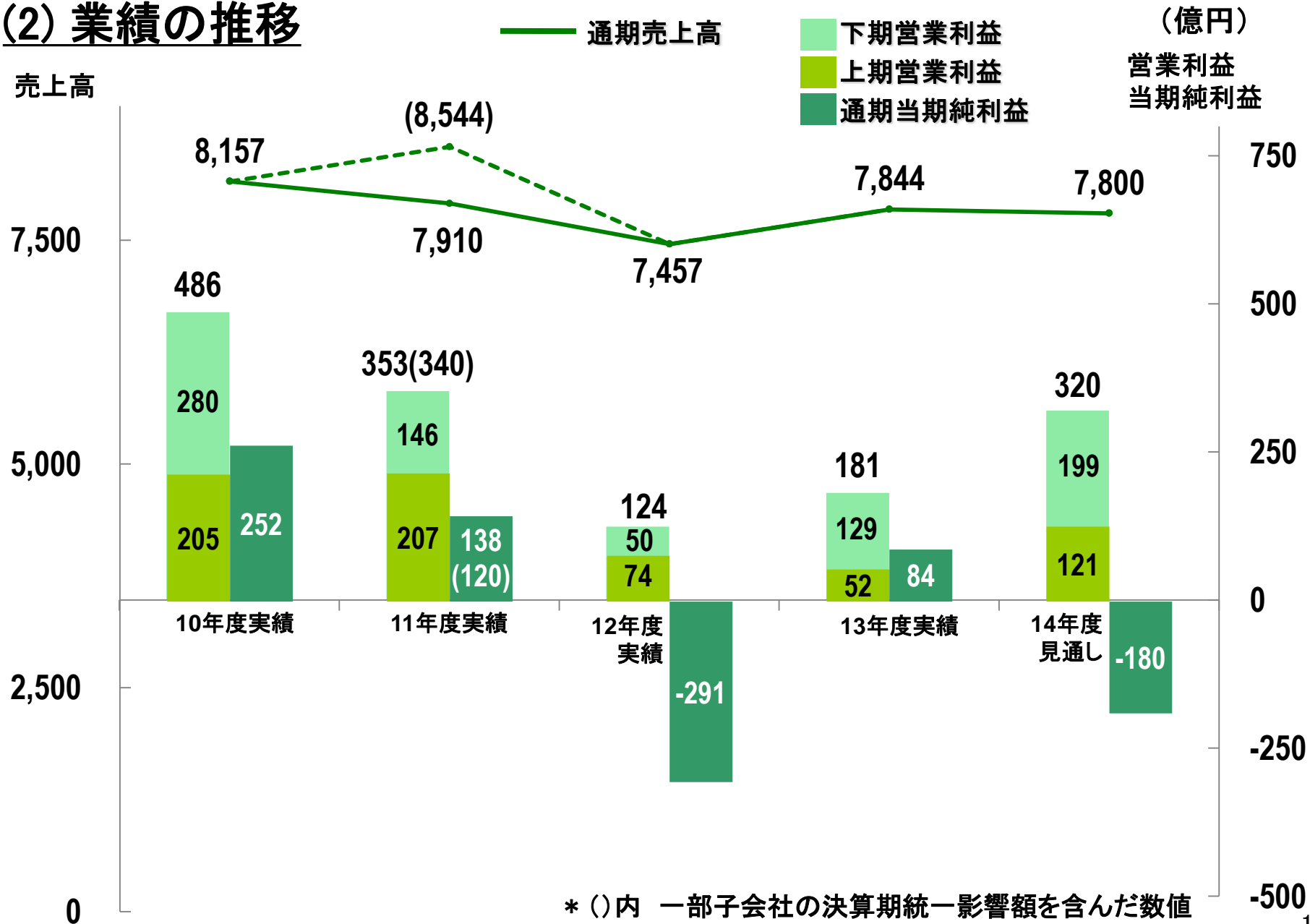
中間配当	2.0円/株
期末配当	2.0円/株の見通し
年間配当	4.0円/株の見通し

## ■ 2014年度見通し前提

	前回見通し*2	今回見通し
米ドル	104円	110円
ユーロ	138円	138円
原油(Dubai)	105米ドル/バレル	83米ドル/バレル



## (2) 業績の推移



## ◆セグメント別 売上高・営業利益推移(前年実績対比)

(億円)		13年度実績			14年度見通し			年間 差異
		上期	下期	年間	上期	下期	年間	
売上高	高機能繊維・複合材料	584	652	1,236	644	756	1,400	+164
	電子材料・化成品	913	881	1,794	922	878	1,800	+6
	ヘルスケア	648	736	1,384	678	722	1,400	+16
	製品	1,209	1,333	2,542	1,236	1,314	2,550	+8
	計	3,355	3,601	6,956	3,480	3,670	7,150	+194
	その他	463	425	888	294	356	650	-238
	合計	3,818	4,026	7,844	3,774	4,026	7,800	-44
営業利益	高機能繊維・複合材料	24	34	57	47	68	115	+58
	電子材料・化成品	-27	-45	-72	-13	13	0	+72
	ヘルスケア	94	152	245	121	129	250	+5
	製品	23	28	52	20	25	45	-7
	計	114	168	282	174	236	410	+128
	その他	-3	21	17	5	30	35	+18
	消去又は全社	-59	-60	-119	-58	-67	-125	-6
合計	52	129	181	121	199	320	+139	

## ◆セグメント別 売上高・営業利益推移(前回見直し対比)

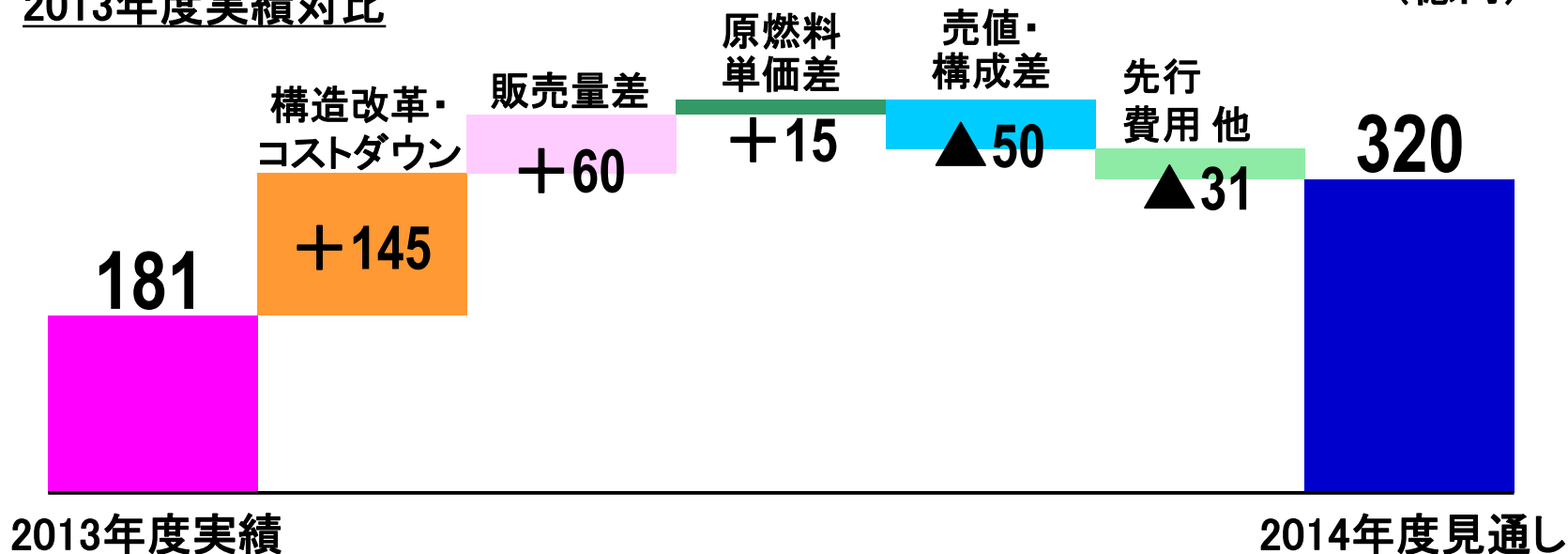
		(億円)	前回見直し*	今回見直し	差異
売上高	高機能繊維・複合材料		1,350	1,400	+50
	電子材料・化成品		1,800	1,800	—
	ヘルスケア		1,400	1,400	—
	製品		2,600	2,550	-50
	計		7,150	7,150	—
	その他		650	650	—
	合計		7,800	7,800	—
営業利益	高機能繊維・複合材料		75	115	+40
	電子材料・化成品		-30	0	+30
	ヘルスケア		250	250	—
	製品		50	45	-5
	計		345	410	
	その他		30	35	+5
	消去又は全社		-125	-125	—
合計		250	320	+70	

\* 前回見直しは2014年11月5日に公表

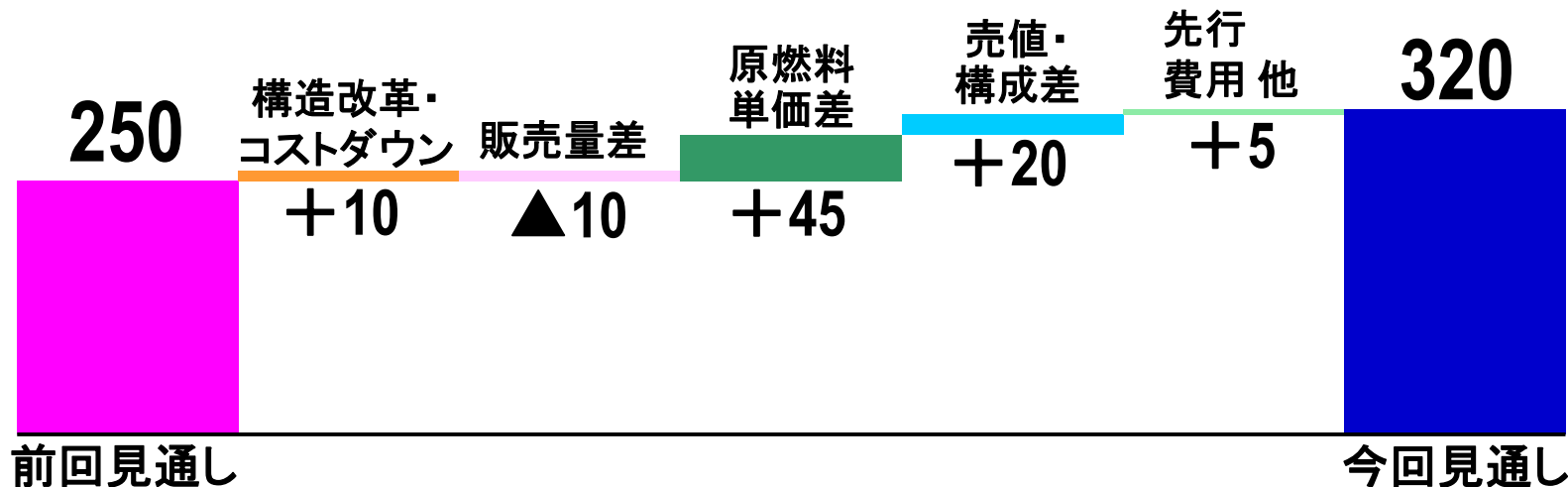
◆ 営業利益増減内訳

➤ 2013年度実績対比

(億円)



➤ 前回見通し対比



**(3) 主要事業の環境認識・アクション**

事業	事業環境	短期アクション
アラミド 繊維	<ul style="list-style-type: none"> <li>新興国が市場拡大を牽引し、市場は回復軌道に</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アジア(中国・インド)、中東、東欧での拡販注力</li> <li>防護衣料・インフラ用途の拡大展開</li> </ul>
炭素繊維 複合材料	<ul style="list-style-type: none"> <li>航空機メーカーの受注引き続き堅調</li> <li>原油安によりシェールガスの開発に影響も</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>注力用途の供給能力アップ(認定設備の拡大)</li> <li>シェールガス開発の動向注視(足元では大きな影響なし)</li> </ul>
PC樹脂	<ul style="list-style-type: none"> <li>原料価格の先行きは依然不透明</li> <li>需給バランスの抜本改善には至らず</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高付加価値用途開拓[自動車ほか]、ターゲット顧客へのスペックイン活動注力</li> <li>生産拠点再編に向け、銘柄移管(顧客再認定作業)を推進</li> </ul>
PET フィルム	<ul style="list-style-type: none"> <li>アジア・新興国メーカー台頭による厳しい競争環境が継続</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生産拠点再編に向け、銘柄移管等の準備を推進</li> </ul>
医薬品	<ul style="list-style-type: none"> <li>フェブリクの拡大順調ながら、長期収載品の競争激化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>フェブリク拡大注力：キー拠点先への高尿酸血症に対する啓蒙強化、投与量アップを図る</li> </ul>
在宅医療	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内では高水準のレンタル台数を維持・拡大</li> <li>米国では厳しい事業環境が継続</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新機種投入やコールセンターの活用等によるサービスの向上によるレンタル拡大(国内)</li> <li>構造改革の早期実行に向けた検討継続(米国)</li> </ul>

## (4) 主要経営指標

	10年度 実績	11年度 実績	12年度 実績	13年度 実績	14年度 見通し
ROA：営業利益／総資産	6.1%	4.5%	1.6%	2.4%	4.1%
ROE：当期利益／自己資本*1	9.1%	4.2%	-10.3%	3.0%	-6.5%
売上高営業利益率	6.0%	4.0%	1.7%	2.3%	4.1%
D/Eレシオ*2	0.94	0.89	1.00	1.00	1.1
自己資本比率	37.3%	38.3%	35.6%	36.7%	33%
1株当たり当期純利益(円)	25.6	12.2	-29.6	8.5	-18.3
1株当たり配当金(円)	5.0	6.0	4.0	4.0	4.0
総資産(億円)	7,615	7,621	7,624	7,684	8,100
有利子負債(億円)	2,674	2,610	2,708	2,815	3,100
EBITDA(億円)*3	1,050	863	592	637	760

\*1 「当期純利益÷自己資本」にて算出

\*2 「有利子負債÷自己資本」にて算出

\*3 「営業利益+減価償却費」にて算出

# 見直しに関する注意事項と事業等のリスク

## 見直しに関するご注意

当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではありません。

## 事業等のリスク

業績等に影響を与える可能性のある重要な要因には、以下の事項があります。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。

### ① 競合・市況変動にかかもの

帝人グループは市況製品を展開しており、景気動向、他社との競合に伴う市場価格の変動、購入原燃料の価格変動、また為替、金利といった相場の変動により事業業績が大きく左右されることがあります。

### ② 製品の品質にかかもの

ヘルスケア事業においては、生命関連商品を取り扱っているため、製品の欠陥により、業績、財務状況、社会的評価等に悪影響を及ぼす可能性があります。

### ③ 医薬品の研究開発にかかもの

医療用医薬品の開発には、多額の費用と長い期間がかかるうえ、創薬研究において、有用な化合物を発見できる可能性は決して高くありません。また、種々の要因により承認申請を断念しなければならない可能性があります。また、承認申請した後でも承認が取り消されることがあります。

### ④ 海外活動にかかもの

海外での活動について為替変動に係るリスクのほか、予期しない法律・規制の施行、不利な影響を及ぼす租税制度の変更、経済変動、政変・テロ・戦争等による社会的混乱により、経営成績及び財務状況等に悪影響を及ぼす可能性があります。

### ⑤ 事故・災害にかかもの

大規模な自然災害や不慮の事故等により生産設備が損害を受けた場合や原材料の供給等サプライチェーンに大きな障害が生じた場合は、帝人グループの経営成績及び財務状況等に悪影響を及ぼす可能性があります。

本資料は、2015年2月3日午前11時30分に公表した弊社決算発表に基づくものです。  
本資料に記載された製品名等は登録商標です。

## ◆ 連結貸借対照表

(億円)	13年 3月末	13年 6月末	13年 9月末	13年 12月末	14年 3月末	14年 6月末	14年 9月末	14年 12月末
資産 合計	7,624	7,838	7,668	7,910	7,684	7,838	7,798	8,327
流動資産	3,723	3,725	3,662	3,856	3,649	3,676	3,708	4,131
固定資産	3,901	4,114	4,006	4,054	4,035	4,162	4,090	4,196
負債・純資産 合計	7,624	7,838	7,668	7,910	7,684	7,838	7,798	8,327
負債	4,703	4,889	4,713	4,893	4,683	4,838	4,993	5,391
(内 有利子負債)	2,708	2,877	2,923	2,969	2,815	3,034	3,020	3,173
純資産	2,921	2,949	2,955	3,017	3,001	3,000	2,805	2,936

\* 詳細については決算短信をご覧ください

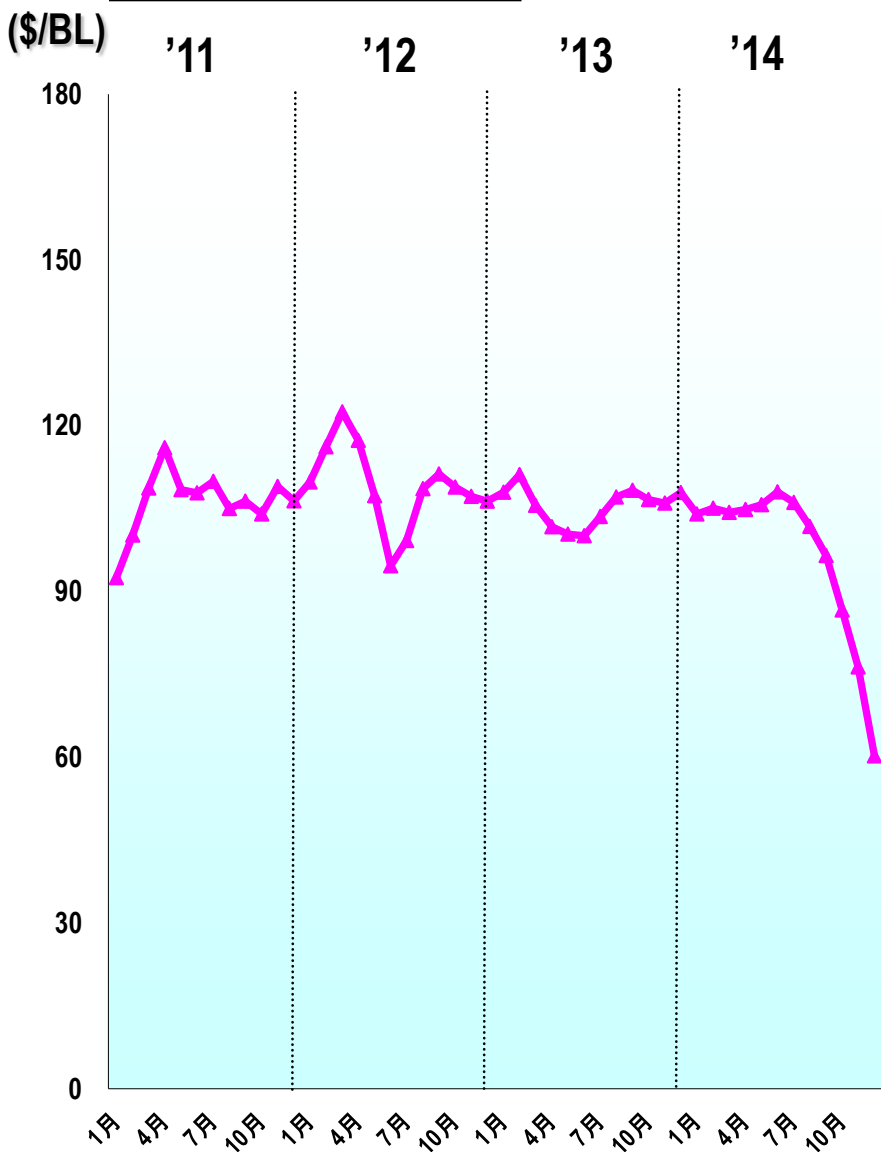


## ◆ 連結損益計算書

(億円)	13年度				14年度		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
売上高	1,835	1,983	1,964	2,062	1,819	1,955	2,011
売上原価	1,379	1,513	1,482	1,527	1,339	1,452	1,451
売上総利益	456	470	483	535	480	503	560
販管費	438	436	438	451	431	430	435
営業利益	18	34	45	84	48	73	124
営業外損益	-3	-8	41	-12	-2	21	25
（内 金融収支）	-3	-7	-4	-5	1	-5	-2
（内 持分法投資損益）	-1	4	34	5	4	12	9
経常利益	16	25	86	72	47	94	149
特別損益	-3	53	-66	-38	-8	-412	-41
税前利益	13	78	20	34	39	-319	108
法人税等	11	39	31	-1	24	-57	29
少数株主損益	0	-4	-16	2	-1	-22	-0
四半期純利益	2	43	4	33	16	-240	79

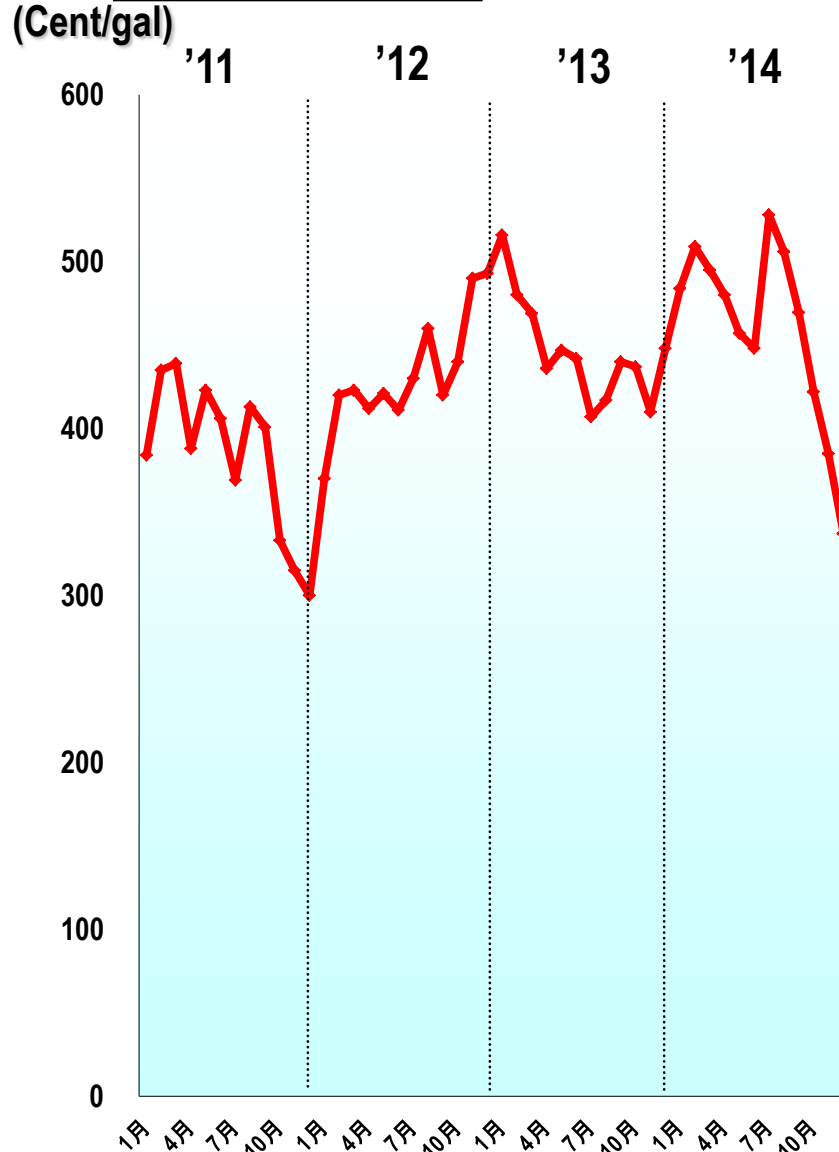
\* 詳細については決算短信をご覧ください

### ◆ ドバイ原油価格推移



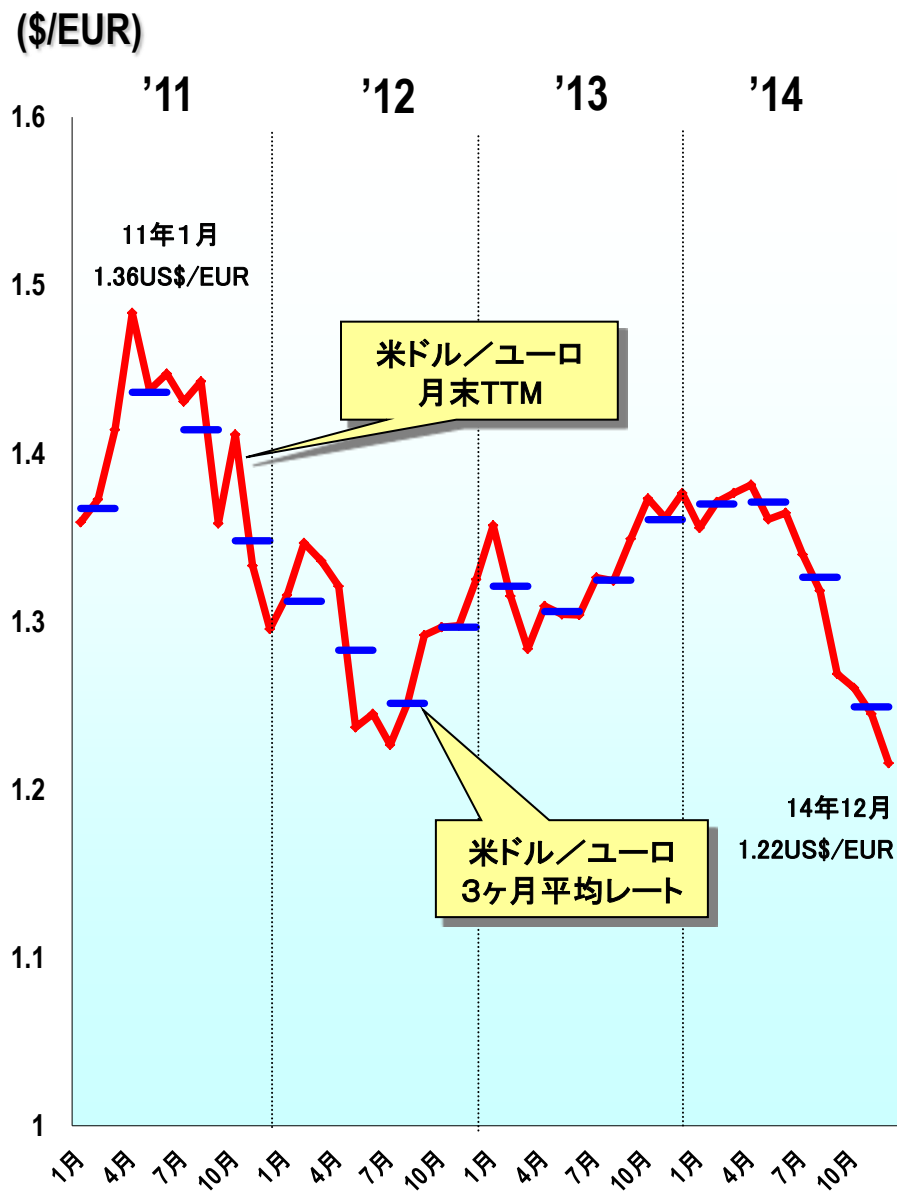
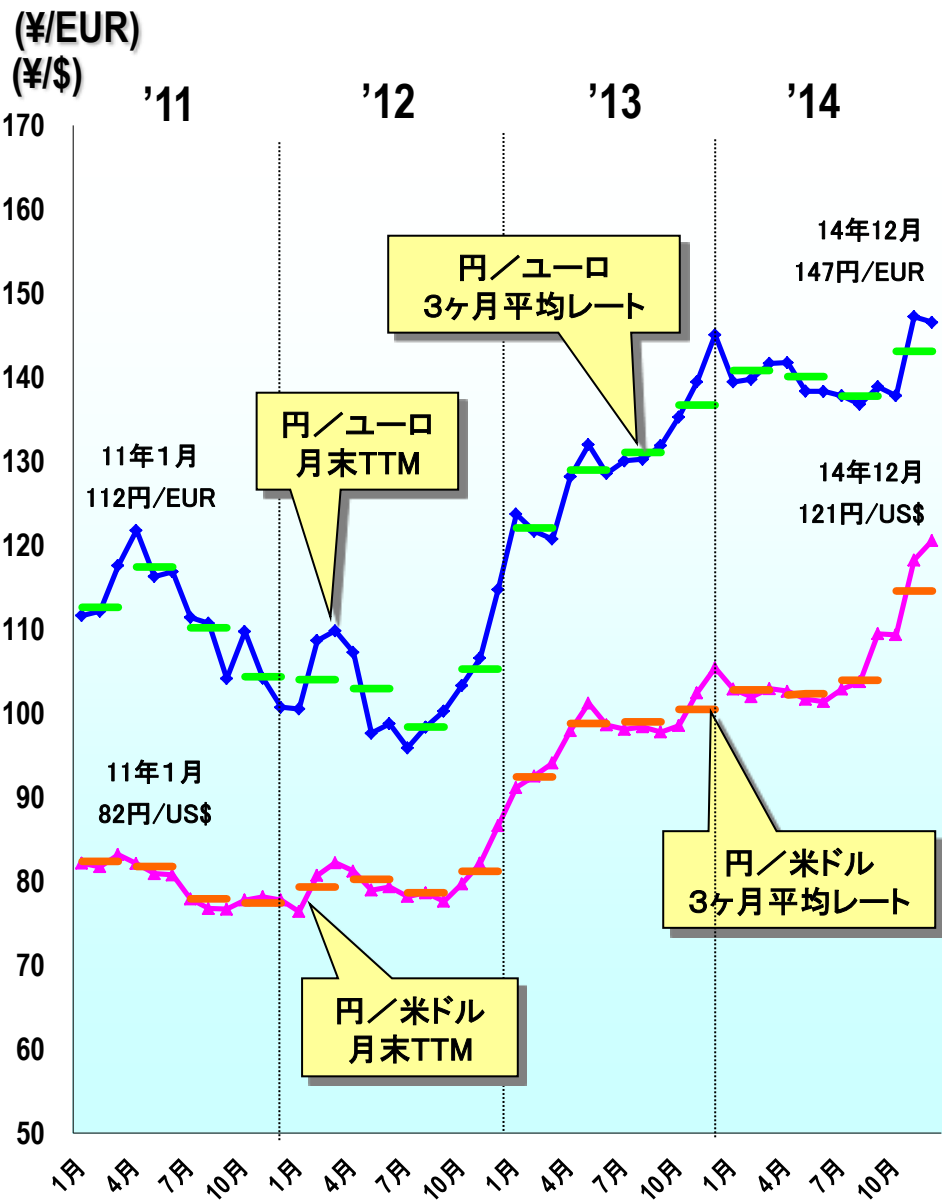
【出所:Platt's社のDATAを基に弊社推定】

### ◆ ベンゼン価格推移



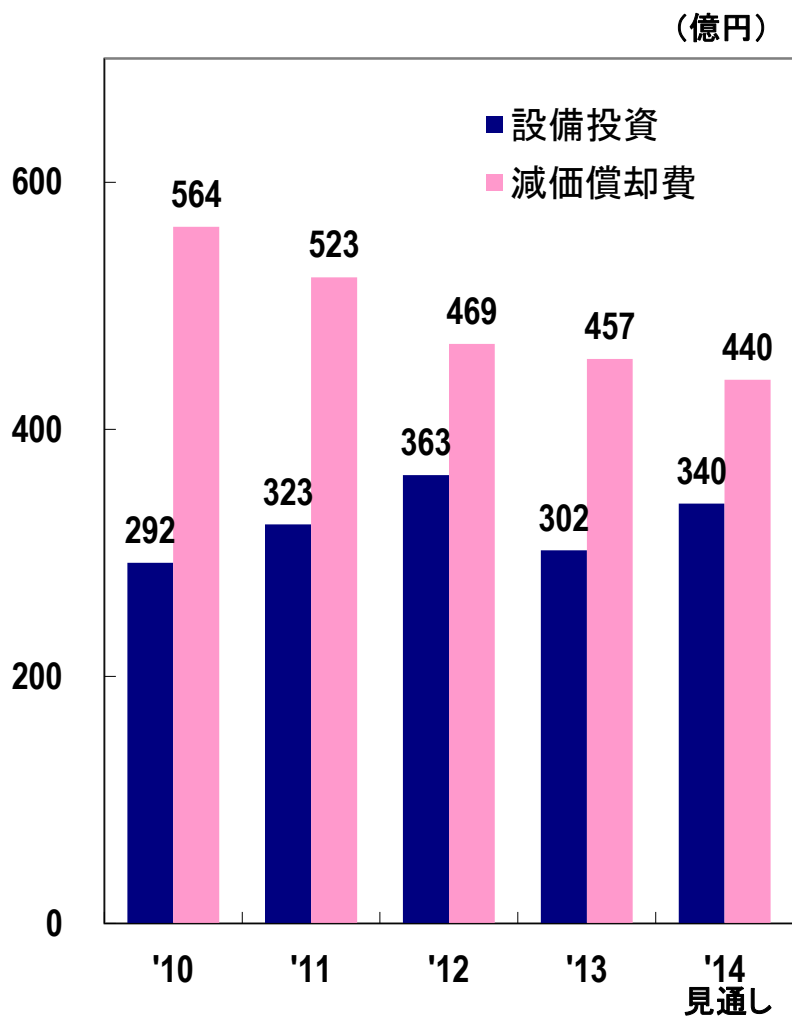
【出所:BZ DewittのDATAを基に弊社推定】

### ◆ 円／米ドル、円／ユーロ為替レート推移

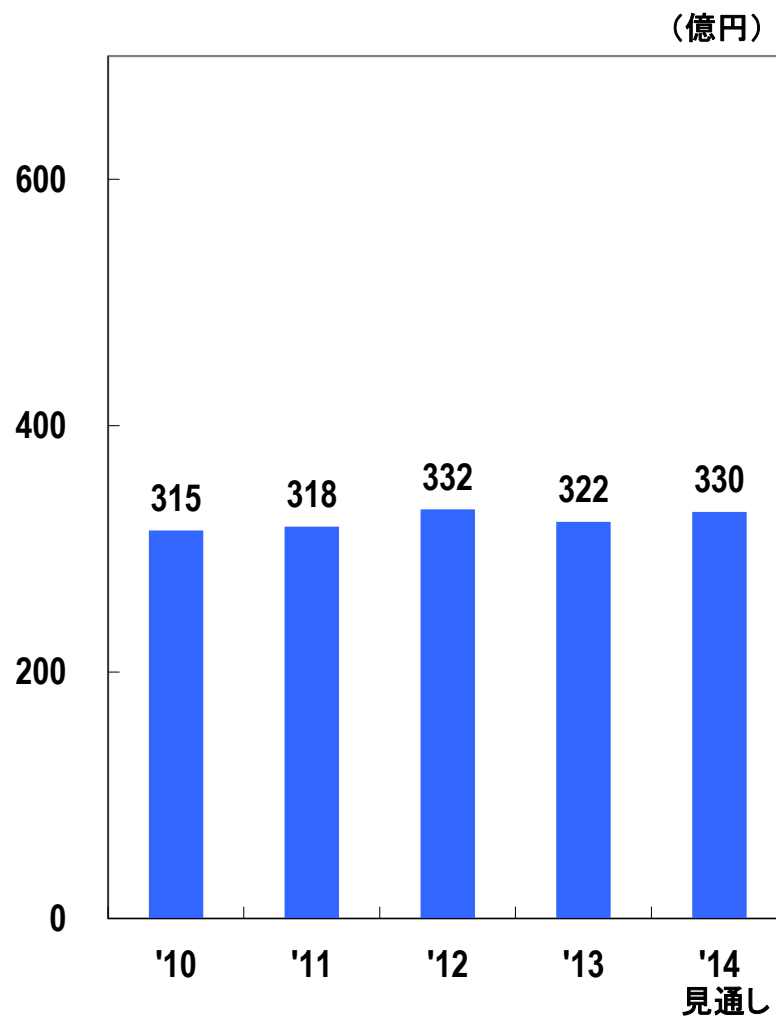


# ◆設備投資・減価償却費・研究開発費推移

設備投資・減価償却費



研究開発費



## ◆ 主要医薬品売上高実績推移

(億円)

品名	薬効	13年度					14年度		
		1Q	2Q	3Q	4Q	計	1Q	2Q	3Q
ボナロン®*	骨粗鬆症治療剤	32	37	41	32	142	31	33	36
ワンアルファ®	骨粗鬆症治療剤	15	17	19	14	66	14	14	15
骨粗鬆症治療剤 計		47	54	60	47	208	45	46	50
フェブリク®	高尿酸血症・痛風治療剤	19	25	34	37	114	28	39	47
ベニロン®	重症感染症治療剤	22	23	29	20	94	25	24	28
ムコソルバン®	去痰剤	17	18	24	19	79	16	14	19
ラキソベロン®	緩下剤	8	9	10	8	36	8	7	8
トライコア®	高脂血症治療剤	3	4	5	4	17	4	4	5
ボンアルファ®	角化症治療剤	3	3	3	3	13	3	3	3
オルベスコ®	喘息治療剤	3	3	4	3	13	3	3	4
ソマチュリン®*	先端巨大症・ 下垂体性巨人症治療剤	1	1	2	2	6	2	3	3

・ ボナロン®/Bonalon® はMerck Sharp & Dohme Corp.の登録商標です。

・ \*ソマチュリン®/Somatuline® は Ipsen Pharma, Paris, France の登録商標です。

## ◆ 疾患分野別臨床開発段階 (2014年12月末現在)

\* 承認／新規上市は直近1年間を記載

	臨床開発段階			
	Phase I	Phase II	Phase III	申請
骨・関節 領域		ITM-058 KTP-001		
呼吸器 領域		PTR-36*1		NA872ET [ムコソルバン]
代謝・ 循環器領域	TMG-123	ITM-014N [ソマチュリン®] (適応追加: 神経内分泌 腫瘍) TMX-67XR*2 [フェブリク]	TMX-67TLS [フェブリク] (適応追加: 腫瘍崩壊症候群) TMX-67 [フェブキソスタット] (中国)	
その他			GGs-ON, -MPA, -CIDP [ベニロン] (適応追加①: 視神経炎<ON>) (適応追加②: 顕微鏡的多発血管炎<MPA>) (適応追加③: 慢性炎症性脱髄性多発根神経 炎<CIDP>)	

\*1 気管支喘息治療薬として開発中のPTR-36は2014年12月にPhase II 段階へ移行。

\*2 フェブリクの徐放剤(新剤形・新用量)として2014年6月にTMX-67XRの臨床開発に着手。

## ◆ 前臨床・臨床準備段階の導入状況(直近3年間を記載)

導入契約	導入元	内容
2014年5月	英シグマタウ社	ADA欠損症治療薬EZN-2279の日本における独占的開発・販売契約を締結

◆ 新規開発医薬品 (2014年12月末現在)

## 【承認申請】

開発コード(一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
NA872ET (アムブロキソール塩酸塩)	去痰	既に販売している去痰剤アムブロキソール塩酸塩(ムコソルバン)の小型徐放錠。 ムコソルバンLカプセルより小さいため、服薬しやすく、分包性に優れることが期待される。	徐放錠	導入:独ベーリンガー ・インゲルハイム社 2014年2月承認申請

## 【Phase III】

開発コード(一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
GG5-ON (乾燥スルホ化人免疫グロブリン)	視神経炎	本剤の免疫調節作用により、視神経の炎症を抑制し、視機能を改善することが期待される。	注射	共同開発: 化血研 (適応追加)
GG5-MPA (乾燥スルホ化人免疫グロブリン)	顕微鏡的多発血管炎	本剤の抗炎症作用と免疫調節作用により、自己免疫性血管炎を鎮静化させ、標準治療で残存する神経障害(多発性単神経炎)を改善することが期待される。	注射	共同開発: 化血研 (適応追加)
GG5-CIDP (乾燥スルホ化人免疫グロブリン)	慢性炎症性脱髄性多発根神経炎	本剤の免疫調節作用により、末梢神経の炎症を抑制し、低下した筋力を改善することが期待される。	注射	共同開発: 化血研 (適応追加)
TMX-67TLS (フェブキソスタット)	腫瘍崩壊症候群	本剤の強力な尿酸生成抑制作用により、1日1回の投与で、悪性腫瘍に対する化学療法に伴う高尿酸血症の発症を抑制することが期待される。	錠剤	自社開発品 (適応追加)
TMX-67 (フェブキソスタット)	高尿酸血症・痛風	国内販売しているフェブリク錠を中国に導出する。本剤は、強力な尿酸生成抑制効果に加え、腎機能低下等により既存治療薬を使うことのできなかった患者へも使用が可能であり、中国における高尿酸血症・痛風治療の新たな選択肢として、高尿酸血症・痛風患者のQOL(Quality of Life)向上に貢献できることが期待される。	錠剤	共同開発: アステラス中国 (中国)



## 【Phase II】

開発コード(一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
ITM-014N (ランレオチド酢酸塩)	神経内分泌腫瘍	ソマトスタチン受容体を介したアポトーシスの誘導(直接的作用)や細胞栄養因子の分泌制御(間接的作用)を介した作用により、神経内分泌腫瘍の進展抑制や諸症状の改善が期待される。	注射	導入: 仏イプセン社 (適応追加)
ITM-058	骨粗鬆症	強力な骨形成作用により短期間で骨密度増加と骨折抑制効果が期待できる骨粗鬆症治療薬。既存薬に比べ、強い骨密度増加作用と高い安全性(高カルシウム血症のリスク低減)が期待できる。	注射	導入: 仏イプセン社
KTP-001	腰椎椎間板ヘルニア	腰椎椎間板ヘルニアに対する化学的髄核融解療法剤。 生体内でヘルニアの自然退縮に関わる酵素(マトリックスメタロプロテアーゼ)と同じ構造のヒト型タンパク質であることからアレルギー反応のリスクが少なく、選択的に作用するため、椎間板周囲組織の傷害性が低いと期待される。手術に代わる低侵襲性の治療法の選択肢を広げることができる。	注射	発明者: 波呂浩孝氏、 小森博達氏 共同開発: 化血研
TMX-67XR (フェブキシソスタット)	高尿酸血症・痛風	既に販売している高尿酸血症・痛風治療剤フェブキシソスタット(フェブリク)の徐放剤。	経口	自社開発品
PTR-36	気管支喘息	新規作用機序(CRTh2拮抗作用)によって喘息症状をコントロールする長期管理薬。 単剤による吸入ステロイドと同等の治療効果(軽症患者)や吸入ステロイドとの併用による十分な治療効果(軽症～重症の患者)が期待される。	錠剤	導入: 英プルマジェン・セラピューティクス(アズマ)リミテッド社

## 【Phase I】

開発コード(一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
TMG-123	2型糖尿病	新規作用機序(肝優位型GK活性化作用)による血糖コントロール薬。 血糖コントロールが不十分な患者で有効性が期待されるほか、高い利便性(1日1回投与、腎機能低下患者で用量調節の必要性低い、薬物相互作用の懸念が少ない等)が期待される。	錠剤	

# TEIJIN

*Human Chemistry, Human Solutions*

## *Human Chemistry, Human Solutions*

テイジンブランドの約束を“Human Chemistry, Human Solutions”と表現します。

この約束は、「人と地球環境に配慮した化学技術の向上と、社会と顧客が期待している解決策を提供することで本当の価値を実現することに挑戦し続けること」を意味しています。

私たちはこの約束を確実に成し遂げ、企業理念であるQuality of Lifeの向上に努め、社会と顧客から信頼される企業グループであり続けます。